

国際

こだいら



2010年
No.62

Kodaira International Friendship Association News



2010年10月17日(日)

第35回
小平市民まつり
パレード





ゆかたで
楽しむ
夏まつり

7/17 (土)

立川防災館
体験ツアー

7/26 (月)



KIFA 写真館



小平
市内ツアー
(小平ふるさと村)

10/23 (土)

小平
市民まつり
パレード

10/17 (日)



小平市民まつりパレード 10月17日(日)

去年に続き、小平市民まつりのパレードにKIFAから30人ほどが参加しました。集合場所のルネこだいらに行くと、KIFAハッピを着た人、民族衣装でメイクをしている人、金髪のカツラをかぶった人(えっ!ハロウィンパレードと違うよ!)などなどが、ワイワイガヤガヤ準備をしていました。気持ち1つになって何かをするのは万国共通、楽しいものです。

パレードは、12時スタート。前はコリアン・スチューデント in 小平の華やかな衣装をまとった子達の舞。後ろは創

価ルネサンス・バンガード・ジュニアの男の子達の吹奏楽部。それらに挟まれ、プラカードを持つのはオギノスタン人。(とは架空の国、我がKIFAの誇る筆頭国際人です。)それに続き、理事長、局長もニコニコ歩いています。

今年はKIFA設立20周年なのでお手製うちわをヒラヒラ振りながら、市長さんの前(本部)を、コマーシャルアピールして盛り上がりました。参加者は童心に返って楽しんでいました。

今日は、ちょっぴり「あやしい集団」に見えた私達ですが、よりいっそうKIFAチームワークが強くなったのではないのでしょうか?来年も楽しみですね。

市役所職員向け英会話教室



10月6日(水)小平市役所2階の会議室。午後5時45分。これから小平市役所の職員研修として90分間の英会話クラスが始まります。我が小平市もグローバル化が進み

(?)外国人居住者が増えてきたとのこと。英会話を窓口業務や電話対応に役立てようと、様々な課の方が、就業後に集まってきます。熱心ですね。今回は全10回中の4回目。参加者は19人で、年齢層も色々です。始業前に、職員の方にお話を伺うことができました。

●健康課の女性2人。出産に関する手続きや、病人の訪問指導等、出向いて対応する機会が多いので、役立てたい。

●保育課の女性。外国人の両親に保育園の入園方法や、待機児童が多いこと、提出書類について説明できる様になりたい。

●生活福祉課の男性。実際には、英語圏の方より、中国や、フィリピンの方が多いが、今後の役に立てたいと思う。等、様々な意見や動機でした。

講師を務めるのは、オーストラリア出身のジェーン・クラーク先生。とても綺麗で2児の母には見えません。実は日本語べらべらだけど、クラスでは内緒。というウワサ…ホントですか?さて、出欠を取ると「ハイ」「yes」「here」など、様々な返事で授業は始まりました。本日は、時計を使って「past」や「to」の表現の使い分けの練習でした。わかりやすいと評判の教材は、KIFAのスタッフと講師が窓口業務用に編集、開発したものです。今回は全10回ということで、基礎的な内容になりましたが、今後は、各課対応のため、より専門化したものになることでしょう。中国語や、韓国語などの研修もありかもしれませんね。



インタビュー セルビア

一橋大学の言語社会研究科で大学院を含め延べ7年、日本文学を研究した首都ベオグラード出身、イェレナ・ブレドヴィッチさんにインタビューしました。

◎日本に興味を持ったのはいつですか？

高校生の頃に訪れたイギリスのロンドンで日本の伝統工芸品を見る機会があり、漆器や帯止めを見たのですが、その美しさに感動してからです。文学よりも美術品から、でしたね。

ベオグラードの大学では初め英語を学びましたが、その後日本語学科に編入しました。ただ、当時日本文学は英語に訳されたものがほとんど、しかもユーゴ内戦がありネイティブの先生は帰国したので、3、4年生の頃はカセットテープを聴くのみの勉強になってしまいました。

◎その後一橋大学に留学され、本格的に日本文学、とりわけ村上春樹の研究を始めたのですか？

ええ、明治以降の近代文学を読んでいましたが、あまりピンとこない。そこで教授に薦められ2年生の頃に「ノルウェイの森」を読んだのが村上春樹の小説との出会いでした。とても読みやすく、面白い！と感じたので、それからはずっと彼の文学について研究しました。卒論は初期の作品「風の歌を聴け」についてとりあげました。深く勉強したかったですし、担当教授に視点を褒められたこともあり博士課程含め丸7年、研究を続けました。昨年彼がエルサレム賞を受賞し、英語でスピーチをした映像はビデオで何度も見ました。感動しました！

◎そもそも、文化・風習など、セルビアってどんな国？

セルビア、とりわけ私の故郷ベオグラードは坂の多い街です。ですから移動手段は圧倒的に車ですし、いまま坂のある風景に親しみが湧きます。風習といえば「守護神の日」があります。これは先祖代々受け継がれる各家庭の守護神を祀る行事で我が家は毎年11月に行きます。パンを作り教会へ持参し祈りを奉げ、そのパンとワイン、小麦のお菓子で先祖の

霊を弔います。この日は家族皆が集まるので1週間ほど前から母親は食事の準備を始めます。ケーキだけでも3種類は作り、母にとっては大変な行事です。日本でいう「お盆」ですね。また、温泉はセルビアにもありますが、あくまで治療目的なので、日本のような楽しみかたは無いですね。

◎セルビア料理を一度たべてみたいものですが…。

日本でいう「しょうゆ」のような調味料と言えばセルビアでは野菜を原材料とした粉があり、何にでもかけます。残念ながら日本では手に入らないので送ってもらっています。肉と言えば豚肉が一番よく食べますが、丸焼きのようにして全部食べたりもします。これは沖縄や中華料理と似ています。豆を使った料理も多いのですが、豆の種類は日本のほうが多いです。

麺類やご飯を食べる習慣はほとんど無く、食事は必ず熱いスープから順にサーブされます。またセルビアでは家庭料理をふるまう事こそが最大のおもてなしです。

◎日本と生活様式が異なる点が多いようですね。

「お疲れ様、お世話様」といった日本語や、熱いラーメンを一気に食べる日本人に対してまで、来日直後は毎日が驚きの連続でしたが今は大丈夫です。

以前両親が来日した際一つ一つに驚く姿を見て、微笑ましいような懐かしいような気持ちになりました。いつも思い出し笑いをするのは、京都で有名なお店のぜんざいを食べに行ったのですが、「甘い豆のスープ」だと、一口食べてずいぶん驚いた時の顔です。また観察好きの父が、「こんなに車が多いのになぜ通りが静かなんだ!？」と言っていた事。セルビアでは車に取り付けてある警報機の音がすごいです。

◎これからやりたいことは？

村上春樹の研究を続けること。そして研究成果を日本語の本にして発表したいですね。

その後ご本人から事務局にご連絡があり、探していたお仕事が決まったとの事。キュートで親しみやすい笑顔のイェレナさん、今後もお仕事、村上春樹の研究ともに頑張ってくださいね！



KIFA 設立 20 周年記念 座談会

8月7日(土)



KIFA は設立時からたくさんの方のご協力を得て今年20周年を迎えました。今回はなかでも深い関わりを続けてくださっ

ている5ヵ国の方に集まっていたいただき座談会を開催しました。

印象的だったのは、みなさんそれぞれの立場は違えど日本が大好きで日本の良さを外からの目でよく評価されていることでした。また、日本の学生は歴史の勉強が欠けていて、そのために海外に出たときに非常に困る体験をすることがあり、これからの日本人が世界とどう対面していくかという課題が指摘されたりもしました。

今世界の流れが大きく変わってきている情勢の中、どう国際

交流していくか?…突き詰めれば個の対応が重要であること。また国際交流以前に国内交流も足りないのではないかと…など KIFA へも熱いアドバイスをうかがうことができました。

この座談会の様子は1月の記念式典で配られる KIFA 設立20周年記念誌に詳しく掲載されます。

参加して下さった5人は

- ・コトフさん(文部科学省奨学金で来日し、現在税理士。アメフトと合気道を愛するブルガリア人)
- ・ベルさん(31年前に来日し、25年前より小平在住のイギリス人。英会話学校を運営し翻訳・通訳と幅広くご活躍。)
- ・朱さん(26年前に中国から来日、上海戯劇学院客員教授。絵画、演劇と多岐に渡るご活躍で、KIFA では篆刻教室の先生です。)
- ・ダリンさん(ご主人の仕事のため9年前にフィリピンから来日後に日本語を習い高校に入学。現在子育てをしながら日本とフィリピンとの国際協力 NPO を設立中)
- ・李さん(留学生のご主人とともに韓国から来日し、現在子育て中)

国際こどもクラブ ハロウィンパーティー

10月30日(土)



年に一回のハロウィン・パーティーは国際こどもクラブの子ども達にとって待ちに待ったお楽しみ。何と台風14号が東京に向かってくる大雨にも関わらず、子ども達はひとりの欠席もなく全員集合

です！いつもの教室は部屋中ハロウィンの飾りつけがされ、英会話のパトリック先生も今日は綿々のセーターでなんだかワクワクと盛り上がった雰囲気の中で邪魔しました。

英会話が終わるといよいよお楽しみのスタート。子ども達もマントや魔女の帽子などを付けて可愛く変身です！

まずは折り紙でハロウィンのリース作りが始まりました。かぼちゃのランタン・おばけ・お墓・骸骨を折り紙で折ってリースに飾っていきます。…折り方の図を見ながらすぐに折り紙ワールドに没頭。子供たちの集中力がすごいですね…。

次はTrick or Treatでお菓子とジュースをスタッフの方か

らいただきました。

楽しいティータイムの後はダーツ大会。二組に分かれてカラフルな風船をねらいます。ダーツが外れて壁に刺さって大爆笑したり見事風船がはじける音に耳を押さえて叫んだりととってもにぎやか。

ゲーム終了と共に本物の大きなかぼちゃのランタンが登場！部屋を暗くしてランタンをつけると気分は最高潮。みんなでランタンを囲んで写真もパチリと撮りました。

子どもはみんな遊びの天才、楽しいこと大好きですね！スタッフの方もランタン作りやゲームの準備などありがとうございました。



台湾茶入門講座



台湾出身の木村秋美先生を講師に迎えての台湾茶教室も、取材した日には早くも五回目と言う事もあり受講生の皆さんもお互い打ち解けた雰囲気でした。リラックス出来る台湾の

音楽がかかる中での受講生は全14人、中にはご夫婦・親子での参加、また長く台湾茶を学んでいる方もいます。本日本村先生が用意された茶葉は「杉林溪高山茶」というソフトで爽やかな味が楽しめる台湾の中央山脈で作られるお茶。台湾茶をおいしく煎れるコツは「湯温・茶葉の量・時間」の三点、これに加えおもてなしの心を持って煎れることだそうです。

今回皆さんの前で実演するのは男性のかた。全受講生の視線を浴びながらやや緊張した面持ちでしたが、「香りの良さが伝わってきます。」とおっしゃると、先生曰く「お茶の香りが分かるということは、リラックスできているんですよ。お茶をたてると緊張していた気持ちも落ち着き、また病気がよくなることもあるんですよ。」とのこと。確かにお茶の香りは日本茶でもホッとすることがありますよね。でも、それ以上に台湾茶は精神統一することにより病気を治してしまう力があるということなのかもしれませんね。取材した私達もそれぞれいただきましたが、二煎・三煎といただくごとに味、香り共に微妙に変化していくのですがそれぞれに良さがあり、台湾茶の奥深さを感じました。ただ、今年も台湾でも猛暑の影響で今回いただいた高山茶の葉も収穫高が少なくなってしまい、取材では貴重な茶葉を味わえる機会となったわけです。

少し前までの猛暑が信じられないくらいに涼しい風が吹く玉川上水沿いを香り高いお茶の余韻を楽しみながら教室をあとにしました。

編集後記

先日取材先で「機関紙、読んでますよ。なかなか面白いですね！」と言っていました。とても励みになります。機関紙ボランティアになり早一年、事務局をはじめ他のメンバーに色々とお迷惑掛けながらも私自身はすこぶる楽しく活動しています。今後もご意見をぜひお寄せください。ただし打たれ弱い性格なので、叱咤・激励の「叱咤」部分はお手柔らかに(笑)。(M・M)

発行日 平成22年12月1日
発行 小平市国際交流協会
編集 機関紙グループ

〒187-0045
小平市学園西町2-12-22
学園西町地域センター3階
☎ 042-342-4488
FAX. 042-347-3003

